

令和2年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：函館地区
- 2 事例報告学校名：函館市立中島小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 高間 猛
- 4 キーワード：「地域の教育力を活用した特色ある教育活動」

1 はじめに

本校は、函館が東京や横浜を除いて関東以北最大の都市であった昭和初期に、箱館戦争の激戦地となった千代ヶ岡陣屋の跡地に開校し、この陣屋で活躍した中島三郎助にちなんだ校名で88年前に開校した。校区には、市民の台所と言われる市場である中島れん売や千代台スポーツ公園、有名な菓子工場、大病院や各種公共施設、福祉施設など学びの素材が多くあり、教育環境に恵まれた旧市街地中央部に位置する学校である。

地域は、古き良き函館の雰囲気を保ち、家庭・地域の学校に対する理解と協力には心強いものがある。CSやPTAを中心に子どもたちを真ん中に、地域の教育力を活用した特色ある学校教育の推進が実現できている。

2 教員・保護者・地域住民の目指す大人像を明確にしたグランドデザイン

次世代の社会を担う子どもの育成には、保護者はもとより地域住民の支援や地域の教育力が欠かせない。本校では、社会に開かれた教育課程の編成や学校運営協議会での学校課題の共有、活発な地域学習の展開を通して学校と地域の結びつきを強化してきた。

今年度は、新たに本校に関わる全ての大人が一致して子どもの健やかな成長を願い協働することをねらいに「めざす大人像」を設定し、様々な場面で共有する取組を始めた。

3 福祉の心を育む「愛泉寮」との交流活動

校区内にある介護老人福祉施設「愛泉寮」に関わるボランティア団体は、本校を含めて40団体を超え、本校PTAも独自に月2回、寮に出向き、レクリエーション補助を担当している。地域住民や子どもたちも楽しみにしている「愛泉まつり」は、ボランティアの輪を体感できる機会となっており、まさに愛泉寮は、地域の核となる施設である。その愛

泉寮と本校の交流活動の歴史は半世紀に及び、学年に応じて「福祉の心を育む」教科横断的な教育課程を編成し、様々なボランティア交流活動の実践を重ねている。



似顔絵大会

具体的な例としては、5年生を除いた全ての児童が愛泉寮を訪問し、敬老の日コンクール「似顔絵大会」に向けて、高齢者と会話しながら似顔絵を描く活動を行っている。また、5年生のボランティア訪問交流は、数人のグループを作り、高齢者でもできるゲームやクイズで楽しみ、出し物を披露するなど笑顔届け、喜んでもらっている。他にも5年生は、七夕に合わせて寮を訪問し、高齢者と自分の願いを短冊に書き込み、飾る、ふれあい活動も行っている。さらに、寮の高齢者のうち、外出できない方のために学芸会の発表を2年生と5年生が寮に訪問して披露している。このように、一過性の取組に終わらないように、年間を通して



ボランティア訪問交流



七夕の飾り付け

「福祉の心を育む」教科横断的な教育を推進し、確実に児童の資質・能力の育成に結びつけている。



ミニ学芸会

4 校区内各団体との強い連携

これら地域を舞台に学ぶ中で関わる大人達の輪が広がり、中島町会や児童館、中島れん売の商店街組合、ふれあいセンター等、児童の健全育成や地域振興を担う各団体と学校が強く連携し、校外学習を充実させるとともに校外での児童の活躍の場を支援している。



三世代交流もちつき会

学校に隣接している中島児童館は児童の放課後の貴重な居場所となり利用率も高い。その児童館と中島町会との共催で行う三世代交流もちつき大会やカルタ大会には、多くの児童が参加しており、地域の高齢者や大人達とのふれあいは、福祉の学びを实践する良い機会となっている。



町内会カルタ大会



れん売探検

また、1・2年生活科や3・4年社会科、総合的な学習の時間などで、「れん売」や「ふれあいセンター」の見学や調査を通した学びは、地域の活性化への参画活動として、みこしパレードやふれあいセンター祭りなどの協力へとつながっている。



みこしパレード

5 おわりに

今年度は、コロナ禍もあり中止や延期となった取組が多い。5年生が作文に「やれることがあり、やれるならば、私はやりたい。」と書いていた。子どもたちの願いを生かし、積極的に地域社会に関わり、自己実現を目指す社会に開かれた教育課程の展開に向けて、学校運営協議会でも今後の取組のあり方を検討し始めている。